

## 私たちの生活信条

1. 国民の祝日には国旗をかゝげよう
  2. 交通規則を正しく守ろう
  3. 明るく正しい選挙を実現しよう
  4. 小さな親切を広めよう
  5. 小さな暴力でも追放しよう
  6. 定められた時間は必ず守ろう
  7. 環境の美化につとめましょう

The logo for NAGASU is centered on a white background. It features the Japanese characters 'ながす' (NAGASU) in a large, bold, black font with a white outline. Below these characters is the English word 'NAGASU' in a smaller, bold, black font. The logo is framed by a decorative border of stylized fish swimming in opposite directions and clusters of clouds or bubbles.

6月号

昭和46年6月1日発行  
通算 第64号

題外 第 34 号

発行者 長洲町中央公民館  
発行人 林 田 幸 昌  
編集者 広報長洲編集部  
印刷所 中央印刷紙工KK

人口の動き(4月分)	
出生	18名
男	10名
女	8名
死亡	10名
男	5名
女	5名
転入	116名
男	54名
女	62名
転出	123名
男	64名
女	59名
世帯数	3,465
人口	13,985

昭和四十六年度予算を慎重討議する町議会



# 昭和四十年度末本町行政

## 主な予定事業

昭和四十五年は長洲町にとつてあわただしい年であった。五月初旬の日立造船誘致の発表を契機にして、大きく町の様子が一変したといえる。明治以来百有余年、大した変化もなく、戦後の農村の過疎化の波に乗り、毎年々減少していた人口も、大企業の誘致決定により、過疎から過密へと大きく転換しようとしている町の現状である。

# 長洲町総合振興計画決まる

- 老人福祉センター建設
  - 町民体育館建設
  - 腹栄中プール建設
  - 町道新設、改良事業
  - 新川漁港改良事業
  - 塵芥焼却場建設

昭和六十年を一応の目標とし、人口四万七千人を想定して町づくりの計画がつくられたのである。半農半漁の町からグリーン工業都市を目指し、人口の動態も一次産業から二次産業へと推移が予想されている。土地利用の問題、交通通信の計画、産業振興、社会福祉の充実、教育施設の拡充強化、公害防止の推進等々、長洲町の振興についての基本計画、産業振興計画、社会開発計画、行財政計画等詳細にわたって決められている。

五月は早苗月ともいふ。早苗の瑞々しい緑が風ある毎に波を寄せ、見ても新鮮な匂いを感じる時である。長洲町の新装なった白堊の殿堂中央公民館は、初夏の息吹きを感じる緑一色の田ん圃の真中に建つてゐる。夜残業で遅くなると、周囲の田ん圃や池の蛙の鳴声がしげく耳に入り、日頃忘れていた遠い少年の頃を思い出させる気持になる。(◎五月は、公民館にとって今までにない忙しい時であった。五月四日新公民館へ移転、五月五日前中長洲町暴力追放宣言大会、午後公民館の落成式、新公民館は落成式のその日から町民多数の来館が続き、他市町村から視察も相次いで続いている。(◎長洲町の将来を象徴した金魚と造船の町のイメージを取り入れた漸新な設計は来訪者の注目をひいているようである。玄関の東から建物の南東の周囲を取り巻いている池には、地元町養魚組合から寄贈された錦鯉や金魚がゆうゆうと泳いでいる。この白堊の殿堂が長洲町の社会教育センターとして、生涯教育を通じ町づくり、国づくりの心の拠点にならなければならぬ。(◎新公民館は国立阿蘇青年の家にならって、三カ条の生活信条を制定した。即ち、(一)信頼できる仲間づくりをして、生涯教育を、(二)生活に役立つ学習を、(三)定刻に始め定刻に終ろう。この三カ条である。(◎現在の長洲町で一番必要なことは、町づくりに対する町民の協力体制である。そして、それを可能にするのは、信頼できる仲間づくりである。そして、それを可能にするのは、信頼できる仲間づくりである。古諺に曰く「時は金也」。公民館における研修や会合は総て、定刻に始め、定刻に終ろうを提唱し、長洲町から所謂「長洲時間」を追放し、時間を大切にする習慣づけを進めていきたい。(◎新公民館事務室の南の大きな丸窓から見る田園の風景は既に麦秋の候である。うれた麦、五月雨にかすむ新塘、そして、日一日と梅雨の季節へと移っていく。初夏のプ



